

東大物性研究所 液化室だより

◎新入職員・院生の皆さんへ

高圧ガス保安教育を実施します

この講習は高圧ガス取締法に定められている危害予防規程にもとずき、物性研で使用する高圧ガス（寒剤、ポンペ、高圧装置等）を取り扱う人に対して行うもので、対象は今年物性研に入られた職員、院生およびこれまで受講されていなかった人全てとなります。

最近が高圧ガスによる事故がかなり増えています。これは高圧ガスや装置の使用および管理がズサンであることも一因となっています。特に大学は管理の点で問題があることが多く、度々指摘されているところです。少しでも正しい取扱いと管理を知って活用して下さい。

講習は以下の日時・場所・内容で行いますので、対象となる方は必ず出席して下さい。

日・時	5月10日（火）	午後1時30分～3時（予定）
場 所	低温液化室（B棟1階）	
内 容	1、低温委員長挨拶 2、高圧ガス取締法について 3、高圧ガスの実際の取扱い 4、液化室を利用する場合の諸手続き	

◎技術研究会の今後について

去る3月23、24日の両日にわたって岐阜県土岐市にある文部省核融合科学研究所で技術研究会が開かれた。この研究会は毎年開催され、主催研究所をはじめ全国の大学や研究所、高専あるいは会社関係の人も多数参加して、盛大に開かれる。今回も300名近くの参加があり、物性研から数名が参加した。主催は核融合研をはじめ分子研、高エネルギー研の3研究所で、交替で開催にあたっている。その回数もすでに10数回となっている。内容も学会のように発表や討議、施設見学などがあり、有意義な会なので私はなるべく参加するようにしているが、私がこの会に参加するもう一つの理由は多くの知人と旧交を暖めあえることと、全国の大学や研究所の状況が掴めるからである。学会のように学会誌をもたず、ともすれば個々バラバラの状態になりやすい技術者にとって技術研究会はまたとない機会である。物性研からもっと多くの技官が参加することを期待したい。

しかし、技術研究会も年々参加者が多くなり規模が拡大するにしたがって主催研究所に一定の負担が出はじめているようである。それは会場や宿泊所の確保などの問題の外に、運営費や旅費等の不足にあるようだ。事実、先の核融合研でのアンケートにもこのことについて触れていた（同時に他の機関でも開催できるかどうかの問いもあった）。私はその時はあまり深く考えていなかったので回答でき

なかったが、しかし、技術研究会は学会のように全国的規模で支えられているわけではなく、当該研究所の技術部が中心となって開催しなくてはならないので相当大変なことであろうことは容易に想像できる。おそらく学会とか国際会議などと日程が重ならないよう調整したり、旅費や運営費の捻出に頭を悩ましているのではないかと思う。また、運営も責任者をはじめ各分科会の担当の人、受付の人など多数の人が一丸となって開催にあたっているのを見ると、担当研究所の人達の苦勞と勞力に心から感謝したい気持ちである。いつも気楽に参加している私にとっては本当に頭の下がる思いがする。

そこで技術研究会をもっと継続させていくために東京でも開催できないだろうか。その理由は以下による。

- ①いずれの技術研究会をみても東京および東京近郊からの参加者が多い。
- ②1ヶ所でも主催機関が増えれば3研究所に大きな負担をかけずにすむ。
- ③東京は大学が多いので会場や宿泊所を確保するにそれほど困難ではない。

しかし、一方では次のような懸念もある。それは

- ①運営の中心となる技術部が充分機能するかどうか。
- ②運営費・旅費等が確保できるか

という問題である。

勿論、上記のほかにももっといろいろな利点や問題点はあると思うが、しかし、一番気がかりなことは開催場所を替えたり、主催者を増やしたりするとこれまで3研究所の努力によって培われてきた技術研究会の良き伝統が崩れ、変わってしまうのではないかということである。このことは「東京開催」を提唱する私の中にあつて絶対に解決しなければならない最も重要な問題となっている。だが、反面では多少の問題はあつても東京で開くことを考えるいい機会なのではないか、と思つていることもまた事実である。

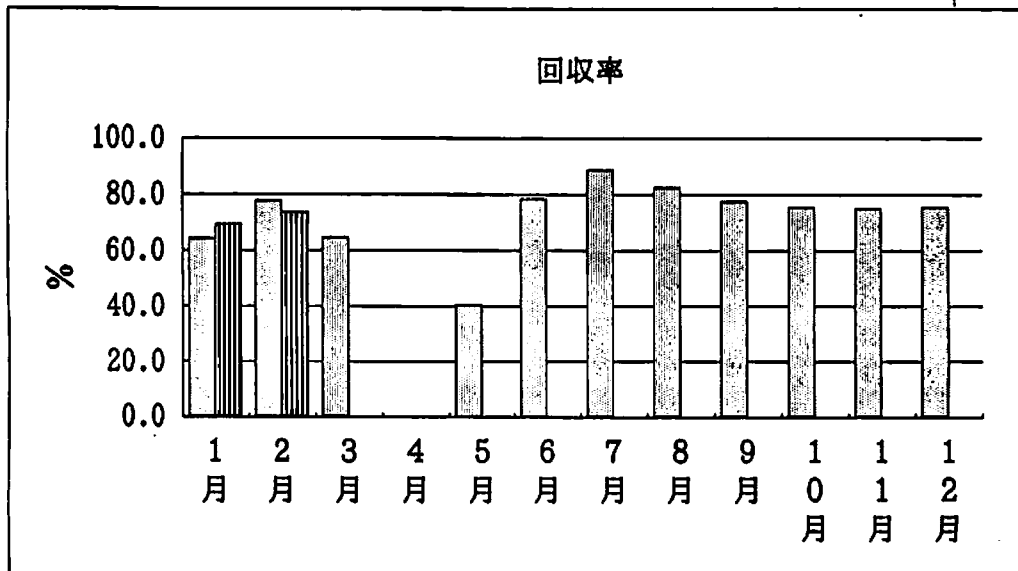
このようなことを言うと必ず「言い出しっぺ」にお鉢がまわってくるので躊躇していたが、思い切って投稿することにした。諸兄の意見は如何に。(吉田)

◎ヘリウムガスの回収率

1993年 年間回収率

月	回収量	供給量	月始在庫	月終在庫	回収率
1月 (1/11~2/8)	3427.6	5593.1	2532.0	2794.0	64.3
2月 (2/8~3/8)	4778.7	5876.4	2794.0	2532.0	77.8
3月 (3/8~3/29)	4638.2	7318.5	2532.0	2707.0	64.9
4月 (3/29~)			2707.0		
5月 (~5/31)	4340.8	10787.0		2808.0	40.6
6月 (5/31~7/5)	7709.5	9066.9	2808.0	2061.0	78.6
7月 (7/5~8/2)	6522.5	7999.5	2061.0	2727.0	88.9
8月 (8/2~9/6)	5465.9	5960.5	2727.0	2068.0	82.6
9月 (9/6~10/4)	4445.1	5947.5	2068.0	2285.0	77.6
10月 (10/4~11/1)	3879.5	5338.0	2285.0	2496.0	75.7
11月 (11/1~12/6)	6201.5	8191.3	2496.0	2444.0	75.2
12月 (12/6~1/10)	5154.1	7116.0	2444.0	2742.0	75.6

年平均 72.9



1994年 年間回収率

月	回収量	供給量	月始在庫	月終在庫	回収率
1月 (1/10~2/7)	4791.3	5752.4	2742.0	1610.0	69.6
2月 (2/7~3/7)	5533.2	7578.0	1610.0	1705.0	73.9
3月					
4月					